

翼 ばあつる

アフガニスタン山の学校だより

03号

子どもたちの一日

第1回総会・現地報告会
東京にて開催

第1回総会資料【別紙】



学校に続く道路で遊ぶ

初の総会と東京、大阪、札幌、釧路での報告会が無事、終了しました。どの会も盛会で、温かな集いとなったことを、最初に全国の皆様にお知らせしたいと思います。

会が誕生してまもなく1年、いま実感しているのは、継続的な支援というのは大変なんだなあということ。例えば、車を購入後、まもなく事故が起き、エンジン交換があり、予想外の出費におたおたしたり…。でも、それも相手があるからこそ、その困難も楽しい思い出になればと思います。

懸念だった中学校の開設準備も進んでいます。認可は来春になりそうですが、すでに女性教師3名が、小学校の子に新しい科目を教えてくれているそうです。

小学校卒業後、男の子は町の中学まで通うことができますが、女の子はまだ放牧だけの生活に戻ってしまうのです。山の斜面で、羊の番をしながら、何するなく座り込んでいる子の姿に胸が痛みます。この子たちが、もっと本を読んだり、外のさまざまな世界を知ることができれば、地域の人々と協力したいと願いながら、活動を続けていきたいと思っています。

2004年12月

長谷川洋海

子どもたちの一日

今年4月の第1回公式訪問からはや8カ月。今回は、前号ではあまりご報告できなかった山の学校の子どもたちの様子についてお知らせします。

報告・長倉洋海

アフガニスタン山の学校支援の会・代表

4月、山の学校には、新1年生が入学していた。小さな子は5歳、大きな子で7歳。面倒を見なければならぬ妹や弟を連れてきている子もいて、教室はにぎやかだ。

昨年、購入した机と椅子には三人掛け、中には四人掛けの子たちもいる。いままで、お兄ちゃんお姉ちゃんが通う姿を、うらやましそうに見るだけだったから、自分が通学できる喜びにあふれている。1年生のホッペは寒風でひび割れているが、温かいピンク色、とれたての果実のように初々しい。

その中に、昨年、1年生だったナエマ（本誌第1号「ポランダの小さな仲間たち」に登場）がいた。先生は「出席日数が足りずに落第した」という。山の子どもたちは、家で飼っている羊や牛の放牧を毎日しなければならぬし、収穫期には小麦の刈入れを手伝う。ナエマの家は、父親が出稼ぎ大工としてカブールに行っていて、母親一人では家事を支えきれないのだ。家族の誰かが急病になったり、町に出かけると、ナエマが学校を休むしかない。12歳のお姉さん

は学校に行かずに家を手伝っている。

毎日、通えない厳しい状況だからこそ、子どもたちは通学がうれしくてたまらない。学校は、日常の家事から解放され、同世代の仲間たちと遊び、喧嘩し、何よりも新しい知識を学べる場なのだ。

学校は8時30分開始。子どもたちは朝5時には起き出して、牛や山羊、羊の放牧に山の斜面を登り始める。8時頃に、母親や姉さんが交代にやってくると、大急ぎで家に戻り、焼きたてのナン（パン）を牛乳入りの温かい紅茶で流し込み、あわてて学校に向かう。家を出るのが遅れた子たちは、山路を駆けるようにやってくる。

授業開始の鐘が鳴った時、新2年生のゼケルラ1（同第1号に登場）が、日本から届いた真新しいリュックサックを背中で大きく揺らしながら、駆け込んできた。息が上がり、ただでさえ赤い、ゼケルラの頬は真っ赤だ。門番をしていた事務員のアブドラがちょっとにらんだが何とかセーフ。ゼケルラに安堵の笑みが広がった。

学校はお昼までで、授業にはダリ語の読み書きや、地理や算数、体育もある。ただ、音楽はない。教えられる先生がいないからだ。それでも、子どもたちが黒板の字を斉

唱する声が、美しいコーラスのように響く。ダリ語はとても雰囲気のある言語。詩が好きだったマスードも、詩を詠む時には、こまやかな抑揚をつけていたなあと思いつく。10時半頃に、長めの休み時間がある。水を飲むと小川に向かう子や便所に駆け出す子もいる。朝食をゆっくり取ってこられなかった子は、リュックサックからナンやヨーグルトを固めたコルトを出して、川の水を飲みながら食べている。食後に、裏



の畑に生えている木の葉を食べている子がいる。私も食べてみると、子どもたちもうれしそう。男の子たちは屈いたばかりのボールでサッカーを始めた。道は岩だらけで、怪我をしないかハラハラする。あぶれた子どもたちが、もつとボールを出してくれるように頼んできた。アブドラが、ボールが傷むのを恐れて

新品を出し惜しんでいるのだ。やっと出してもらったボールを手にすると、子どもたちは嬉々として駆けていく。

運動場代わりの道路は狭いから、サッカーやバレーボールなどのゲームに参加できない子たちは石垣に座って観戦している。桜を思わせる杏の花が咲きほころぶ山の学校に、子どもたちの歓声が上がる。

休み時間、一人の女の子が私に手招きし

て、何やら布に包んだものを手渡ししてくる。桑の実をつぶして保存食にしたタルハーンだ。前に、子どもたちの食べているのをもらって、「おいしい！」と言ったので、持ってきてくれたのだ。

お昼に学校が終わると、子どもたちは家に帰り、昼食を取るなり、午後の放牧に出かける。日が落ちかけた夕方、やっと、羊たちを小屋に入れると、長い一日の終わりだ。

今回の訪問で印象的だったのは、私の乗った車を追い掛けてくる子どもたちの姿だった。山路を一緒に歩いて写真を撮るのがしんどくなると、車から撮影を始めた時のこと。誰かが走り出すと、みんなが車を追い掛けて走り始める。「危ないからやめろ」と叫んでも、みんな伴走してくる。中には、4、5歳の小さな子もいるからドキドキするが、その一途な表情にいとおしさが込み上げる。

2週間の短い滞在を終え、別れの日。教室で、子どもたちの私を見つめる目が、「また、きつと来てくれるよね。待ってるよ」と言っているようだった。

ながくらひるみ ● 写真家。1995年釧路市生まれ。世界の紛争地を訪ね、そこに生きる人々の姿を追う。92年「マスード 愛しの大地アフガン」で第12回土門拳賞受賞。

今後の活動

● 写真展「地球一ぼくらの大地」12/11〜1/30（スライドトーク12/25、1/8、1/15）ちひろ美術館・東京 電話03(3)99950612、3/1〜5/10 安曇野ちひろ美術館 電話0261(62)0772

● 写真展「ぼくが出会った子どもたち」1/5〜1/30（スライドトーク1/10）G三フォトサロン（東京） 電話03(3)2610300

● 写真集「ぼくが微笑む時」(福音館)11月刊 好評発売中

第1回総会・現地報告会 東京にて開催

去る9月20日、東京都武蔵野市の武蔵野スイングホールにて、第1回総会および、アフガニスタン現地報告会を開催しました。当日は会員の方53名のほかに、一般から22名の参加があり、そのうち15名の方が新たに会員になってくださいました。

開会の挨拶の後、まず長倉代表による現地報告会を行いました。スライドを使ってポーランド村の風景や本会の支援対象である「山の学校」の子どもたちの様子が紹介され、今年4月に同代表がアフガニスタンを訪れた時の模様を報告しました。

その後休憩を挟み、会員による第1回総会を行いました。最初に事務局の運営委員一人ひとりを皆様に紹介した後、代表と副代表2名・会計の計4名が壇上に残り、会計報告、規約、そして活動報告と今後の活動計画について説明しました。総会の最後に質疑応答を設け、4名の方からのご質問にお答えしましたが、時間の制約もあり、

その他のご質問やご意見についてはお配りしたアンケートにご記入いただき、後日ニュースレターなどでお答えする形をとらせていただくこととしました。

総会後に開かれた交流会は、多くの方にとって初めての顔合わせとなる機会でしたが、皆様楽しいお話をされており、和やかな雰囲気でした。また会場の一部に展示した子どもたちが描いた絵や、寄贈した絵本についての資料、アフガニスタンの民族衣装などにも多くの方が興味を示され、熱心にご覧になっていました。

今年2月の設立以来初めての総会・現地報告会ということで、不行届きな面もあったかと思いますが、多くの方のご協力のおかげで開催することができました。心よりお礼を申し上げます。

※総会資料「会計報告」「規約」「活動報告と今後の活動計画」と、総会での皆様からのご質問・ご意見をまとめた「第1回総会で皆様から寄せられたご質問・ご意見を同封いたしましたので、どうぞご参照ください。



つながりの始まり — 総会を終えて

私たち運営委員にとって、初めての大きなイベントということで、期待とともに緊張と不安もありましたが、たくさんの方々のご協力のおかげで、なんとか無事に開催することができました。

現地報告会・総会にご参加くださった方々の真剣な表情がとても印象に残っています。皆様からいただいたポーランドの子どもたちの様子を尋ねるご質問や、今後の活動方針についてのご質問などのすべてに、これからの会の活動、そして子どもたちの明るい未来を願う気持ちを感じられ、とても心強く思いました。

総会後の交流会では、皆様からお茶菓子やサンドイッチ、おにぎりなど、たくさんの方の「食料支援(?)」をいただき、温かい交流会になりました。わずかな時間でしたが、私たち、そして会員一人ひとりの方にとっても貴重な交流の時間になったと思います。

今回残念ながらお越しいただけなかった会員の方からもお便りや励ましがあり、山の学校の会は少しずつですが、確実にその輪を広げているという思いを抱くことができました。これからもご協力よろしく願いいたします。

総会司会進行担当 小島崇広

事務局から

📖 図書を贈りました。日本の子どもたちに長く愛されている絵本の中から、「国旗の絵本」戸田やすし著、「すずかん・じどうしゃ」山本忠敬著、「いろいろないちにち」中村まさあき著など、スタッフ厳選の12冊を9月10日に山の学校に寄贈しました。簡単にですが、ダリ語の訳もスタッフの手によってつけられています。すべての書名はホームページにて公開しています。

📄 会員証を発行します。11月30日までに入会された方(9月20日の第1回総会参加者を除く)の会員証を、今回のばあーるに同封いたしました。それ以降に入会された方へは、次回以降に同封しお送りします。10年間大切に保管してください。万が一紛失・破損された方は事務局までお知らせください。すべてスタッフによる手作りでです。

📷 オリジナルポストカードを作りました。山の学校の子どもたちの成長と本会の活動の記録として、ポストカードセット第一集を作りました。写真は長倉洋海撮影、山の学校の会の口ゴ入り、3枚1セットで500円。収益金はすべて本会の活動費に充てられます。報告会などで販売する予定ですが、郵送販売も2セットより承ります。ご希望の方は郵便振替払込票の通信欄にご希望セット数を明記のうえ、送料(3セットまでは90円)を含めてお振り込みください。詳細は別紙「ポストカード販売のご案内」をご覧ください。

💰 会費のお支払いをお願いします。分割払いでお申し込みの会員の方は、来年度分の会費を2005年2月末日までに、同封の郵便振替払込票にてお支払いください。

👥 会員がついに500名を突破! 12月4日現在564名です。会員500名が当面の大きな目標でしたので大変うれしく思います。皆様の温かいお気持ちに感謝申し上げますと共に、今後より多くの方のご支援をいただけるよう、活動を広げていきたいと思っております。

「現地報告会」大阪でも開催

9月25日、大阪市立総合生涯学習センターにて、関西在住の会員有志のご協力のもと、本会主催による現地報告会を開催しました。事前に朝日・産経・毎日の各紙面で

開催告知と参加呼び掛けを行ったこともあって一般からの参加が多く(参加者78名中41名)、会の活動を広く知っていただく良い機会となりました。当日5名の方が新たに入会されました。また、大阪在住の会員の中から2名の運営委員が決まり、関西方面での今後の活動が円滑に進むものと期待されます。

なお、今年6月20日には札幌で「長倉洋海の写真を見る会」、11月2日には釧路で「長倉洋海を応援する会」の主催による現地報告会も行われました。

ありがとうございました!!

子ども用冬物衣料のご提供

7月末に、子ども用冬物衣料のご提供をお願いしましたところ、全国のたくさんの方々からご連絡をいただき、フリース上着、手袋、靴下など1000点近くが集まりました。そのほか文房具などと合わせ、ダンボール11箱を10月11日に航空便でカブールの安井浩美さんあてに送りました。同月25日に無事現地に届き、安井さんとご家族の方、そしてサフダル校長先生の手で、ひとり分(上着1着、手袋1組、靴下3足)ずつきれいな袋に入れられ、30日には子どもたちに手渡されたとの報告を安井さんからいただきました。ポーランドに本格的な寒さが来る前に届けることができてよかったと思います。これも皆様のご協力のおかげです。また、安井さんにも大変お世話になりました。ありがとうございました。

これからもこのような活動を続けていく予定ですが、今回の活動を通して多額の送料や現地の受け入れ態勢などの問題点もいくつか出てきましたので、今後いろいろな面から検討し取り組んでいきたいと考えています。



サフダル校長(中央)と仕上げを手伝ってくださった方々。荷物が届いた時期はちょうどラマダン(断食)中。日本ではお正月にお年玉をもらうように、アフガニスタンの子どもたちはラマダン明けにプレゼント「イーディー」をもらう習慣があるということで、タイミングがぴったり合いました。

(撮影・安井浩美)

新連載

アフガニスタン まめ知識

このコーナーではアフガニスタンをもっと知りたい!という皆さんのために基本的なダリ語をはじめ、ためになる(?)豆知識を取り上げていきます。

今回のテーマ...ことば

アフガニスタンは南アジアと中央アジアの間に位置する多民族国家。パシュトゥ語を話すパシュトゥン人(全人口の約35%)や、ダリ語を話すタジク人とハザラ人(各々約25%、約10%)、ウズベク人(ウズベク語)、トルクメン人(トルクメン語)など多くの民族がいます。公用語はパシュトゥ語とダリ語ですが、ダリ語の方が首都カブールをはじめ、より広い範囲で使われています。

「山の学校」の子どもたち(タジク人)が話しているのもダリ語。ファルシーとも呼ばれ、ペルシャ語とほぼ同じですが、発音など細かい部分で違いがあります。いつの日か山の学校の子どもたちと話すことを夢見て!ここでダリ語の簡単な挨拶をご紹介します。

ダリ語協力: 嶋岡尚子

「こんにちは」

サラーム

ていねいに...

サラーム アレイコム

「ありがとう」

タシャクル

「おげんきですか?」

チュトラル ハステイド?

「はい」ハレ

「いいえ」ネ

ダリ語は右から
左へと書きます。

سلام
ムーラ サ

二十数年にわたった戦争が

終わって3年。10月9日に

は恒久政権樹立のためのアフ

ガンの歴史上初めての普通選挙に

よる大統領選が行われました。開

票結果は、強力な米国の後ろ盾の

あるカルザイ現大統領が55%の得

票結果をもって当選しました。し

かし、いまだタリバン残党などに

よる反政府活動が行われているの

が事実です。未来を担う子どもた

ちのためにも1日も早く平和なアフ

ガニスタンが訪れることを願わ

ずにはられません。

カブールより 安井浩美



ムルサルさんのカブール通信



ザサミンちゃん
(8歳) 2年
好きなもの ● ビデオ
将来の夢 ● 医者



ジャムシッドくん
(8歳) 2年
好きなもの ● リンゴ
将来の夢 ● 医者



セウェッタちゃん
(9歳) 2年
好きなもの ● テレビ
将来の夢 ● 先生



オルファンくん
(12歳) 3年
好きなもの ● サッカー
将来の夢 ● 医者

ポーランドの
小さな仲間たち



アフガニスタン 山の学校支援の会

〒187-0032

東京都小平市小川町 1-1071-15 比留川 気付

FAX: 042-345-7805

URL: www.h-nagakura.net/yamanogakko

郵便振替口座: 00160-1-667404

●お問い合わせはファックスでお願い致します。

編集 ● 岩動紫 小島崇広
佐々木瑞紀 林道子
題字 ● イラスト(p3) ● 近藤理恵
印刷 ● (有) アドタック

次号の発行は2005年4月を予定
しています。本会や小誌「翼」はあ
る「へ」の皆様からの「意見・ご感
想をお待ちしております。左記連絡
先までお寄せください。

本会では皆様から頂いた会費をできる
だけ多く現地の山の学校支援に使うよ
う努力しています。したがって、国内
での活動に必要な経費は、なるべく自
助努力(チャリティー売上金等)によ
って充当していく方針です。つきまし
ては、現地報告会(フラインドトーク)や
交流会等の関連イベントに関しても、
来場される方の参加費等の収入によっ
て運営していくこととなりますので、
皆様のご理解とご協力をお願い申し上
げます。

「アフガニスタン山の学校支援の会」
は、写真家・長倉洋海が取材活動を通
じて出会った、パンシール溪谷ポーラ
ンテ村の子どもたちの教育支援を目的
として設立された非営利の団体です。
2004年2月に設立、以後2014
年3月までの約10年間にわたり活動を
続けていきます。